

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

河 辺 睦 子 氏 長門市医師会 7月8日 享年 94

編 集 後 記

「シルクロード」、もちろんご存知ですね。この絹の道は、東洋と西洋を繋ぐ歴史的な交易路であり、草原の道、オアシスの道、海の道の3つのルートがあるそうです。この夏、NHKのBSで懐かしの「シルクロード」の再放送を見て、巣ごもり夏休みのためにリマスター版DVDを注文。ああっ、これこれ。喜多郎のシンセサイザーのテーマ音楽。夕日に照らされた砂漠を歩むラクダのキャラバン。そこに「シルクロード—しちゆうのみち絲綢之路—」「日中共同取材」の文字。ナレーションは若き日の石坂浩二。ここで一気に40年前にタイムワープ。

番組は、長安の街に立つ陳ちん舜臣しゆんしんから始まる。黄河を越えて敦煌、蒙古の城跡、楼蘭、西域と旅は続き、第7集でウイグル族のオアシスに到着。私もチャイ代わりにミルクティーをお伴に1970～80年代の新疆ウイグル自治区へ。この砂漠の民が屋敷の中庭に絨毯を敷き大家族で囲むごちそうの羊肉は強烈そう。賑やかな市場の子どもたちの表情は明るく、集まって煙草を吹かす帽子のおじいちゃん達もなかなかの風格だ。彼らの結婚式と踊りも楽しい。それに続くシーン。祝福され結婚した若者がNHKのスタッフに、「漢民族では一人っ子政策がとられていますが、私たちにそんな制限はないのですよ」と政府に感謝している。祖先から引き継いだ宗教、文化を守りながら中国で尊厳をもって暮らすウイグルの人々の姿がそこにあった。そして、ここでタイムワープが終了。秦の始皇帝、敦煌の洞窟、タクラマカン砂漠、崑崙の玉などの古代の風雅なイメージはどこかに消え去り、代わりに新疆の収容所、強制不妊手術、香港国家安全維持法などのむき出しの今が目の前に来る。そして私のシルクロードの旅はここで止まったままになっている。

感染対策のため行動半径も狭まり、関心や興味の範囲も小さくなっていた。一週間のうち、いったいどれだけこの感染症を目にして耳にして頭に浮かべるだろうか。人類を脅かす感染症との遭遇は、これが最初でもなければ最後でもない。どんな時でも忘れてはいけない人がいて、問題がある。これがこの夏のシルクロードのお土産だろうか。

(常任理事 長谷川 奈津江)